

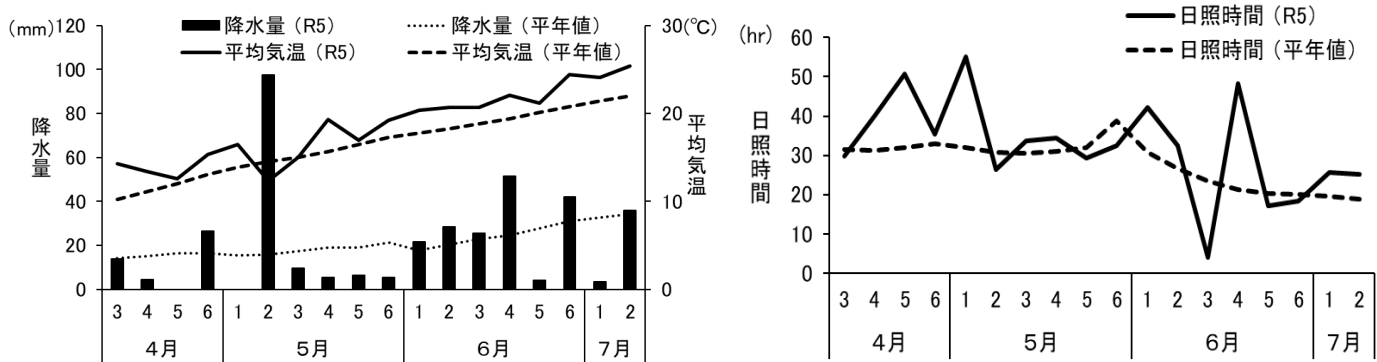
仙台稲作情報 2023 (第5号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL: 022-275-8410 FAX: 022-275-0296
 http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai E-mail: sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷追肥は稲の葉色や生育ステージを確認して適切に実施しましょう。
- ▷ほ場を見回り、いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- ▷斑点米の発生防止のため、水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう。

1 気象経過



- ・6月のはじめは晴れの日が多かったですが、梅雨入り（6月11日）後は曇りや雨の日が多くなりました。月平均気温は平年よりかなり高く、月降水量及び日照時間はやや多く推移しました。

2 管内の生育状況（7月10日の調査結果）

(1) 移植栽培（ひとめぼれ）

- ・草丈は66.4cmで平年より長く、茎数は442本/m²で平年より少ない状況です。前回調査から茎数が減少していることから最高分げつ期は過ぎたものと見られます。葉色（GM値）は35.0で、幼穂形成期の目安（38~40）より淡くなっています。
- ・幼穂長は3.1mmとなっており、「幼穂形成期」に入りました。

表1 7月10日の調査結果

品種	地帯	場所	田植日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉色値 (GM値)			幼穂長 (mm)		
				本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市宮城野区	5/14	61.7	97	102	338	89	83	32.7	-8.1	-6.5	2.1	+0.8	+0.4
	北部平坦	大郷町鶉崎	5/13	68.1	106	107	505	89	84	34.3	-3.3	-5.0	1.4	-1.2	-0.2
	西部丘陵	仙台市泉区	5/11	69.4	110	113	485	84	89	37.9	+5.3	+0.7	5.9	-3.6	-1.5
	管内平均			66.4	104	107	442	87	85	35.0	-2.0	-3.6	3.1	-1.3	-0.4
ササニシキ	北部平坦	大和町鶴巣	5/16	70.4	-	-	410	-	-	37.1	-	-	4.5	-	-
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/15	66.4	97	99	458	81	82	35.7	-4.1	-4.1	1.8	-1.5	-1.2
	管内平均			68.4	-	-	434	-	-	36.4	-	-	3.1	-	-
だて正夢	北部平坦	大郷町土橋	5/19	66.6	103	103	370	89	84	39	-1.1	-0.9	0	-0.5	-0.2
	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	71	94	-	455	107	-	36.3	-2.5	-	-	-3.0	-
	管内平均			68.8	98	-	412	98	-	37.7	-1.8	-	0.0	-1.7	-
金のいぶき	仙台湾沿岸	仙台市若林区	5/10	66.8	-	-	541	-	-	31.9	-	-	0.6	-	-

※平年比の計算は、直近3か年の平均値を使用。大和町鶴巣「ササニシキ」及び仙台市若林区「金のいぶき」は、新規生産者のほ場であるため平年値なし。

(2) 乾田直播栽培

草丈は 64.6cm、茎数は 576 本/m²となっており、葉色 (GM 値) は 36.4 でした。幼穂が確認され (長さ 0.8mm)、まもなく幼穂形成始期 (幼穂長 1mm) に入る見込みです。

表 2 7月10日の調査結果

品種	地帯	場所	播種日	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉色値 (GM値)		幼穂長 (mm)	
					本年	前年比 (%)	本年	前年比 (%)	本年	前年差	本年	前年差
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市若林区	4/6	163.5	64.6	104	576	84	36.4	-2.4	0.8	+0.2

3 生育ステージの予測 (古川農業試験場、7月5日現在)

地域区分別の生育ステージの予測は以下のとおりです

表 3 地帯区分別の生育ステージの予測

地帯区分	幼穂形成期		減数分裂期		出穂期	
	始期	終期	始期	終期	始期	穂揃期
北部平坦	7/1	7/5	7/11	7/15	7/29	8/9
南部平坦	7/1	7/15	7/11	7/25	7/29	8/9
仙台湾沿岸	6/30	7/14	7/10	7/24	7/27	8/7
西部丘陵	7/5	7/17	7/15	7/27	8/2	8/11
山間高冷	7/9	7/16	7/19	7/26	8/8	8/14

注 1) 生育予測に用いるデータ ①日別平均気温(アメダス)、②移植時期、③移植時の葉数(県平均値 3.0 葉)

注 2) 各地帯区分で使用したアメダス地点は次のとおり 北部平坦:大衡、南部平坦:白石、仙台湾沿岸:仙台、西部丘陵:蔵王、山間高冷:新川

注 3) 6月4日までアメダスデータ実測値を使用、7月5日以降はアメダス平年値を使用

注 4) 「減数分裂期」は幼穂形成期予測から 10 日後とした

注 5) 対象品種「ひとめぼれ」

表 4 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1~2mm	—	25~20 日
減数分裂期	30~120mm	-10~0 cm	15~10 日

4 本田管理

(1) 移植栽培

1) 水管理

- ・ひとめぼれとササニシキは幼穂形成期に入りました。他品種も近日中に幼穂形成期に入ると推測されます。出穂期までは飽水管理とし、土壌を酸化的に保ち根の活力を維持しましょう。
- ・幼穂形成期から減数分裂期に、日平均気温 20℃以下が長期間続く場合や最低気温 17℃以下の場合は障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、その際は深水管理を実施しましょう。

※幼穂形成期:水深 5~10cm、減数分裂期:水深 20cm が望ましい

2) 追肥

- ・葉色 (ひとめぼれ) は前年及び平年に比べて低下しています。ほ場をよく観察して適切な追肥を行い、穂揃期の葉色維持に努めましょう。(表 5 及び表 6)
- ・ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。(表 4)
- ・「だて正夢」は葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ色が濃くなり、追肥を抑えがちですが、穂揃期の葉色維持による登熟向上に向けて、適正な追肥を実施しましょう。
- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移します。急な葉色の低下に注意し、登熟向上のために表 5、6 の目安で 2 回の追肥を基本として実施しましょう。
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、倒伏が懸念されるため、原則として追肥は行いません。

表5 生育ステージにおける葉色の目安 ※葉緑素計 (GM 値)

品 種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38～40	35～37
ササニシキ	34～36	32～34
だて正夢	40～42	37～39
金のいぶき	33～35	30～32
つや姫	35～37	31～33
まなむすめ	35～37	36～38

表6 追肥の目安

品 種	窒素施用量 (成分量/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ・金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0～1.5 kg
つや姫・まなむすめ	2.0 k g	—
だて正夢	— (茎数が少ない場合は 1.0kg)	2.0kg (幼穂形成期に追肥した場合は 1.0kg)

3) 病害虫防除

①いもち病

- ・7月10日発表の病害虫防除所の発生予報では、**平年より「やや多」と予想されており、防除情報も併せて発表されました。**

病害虫防除所発生予察情報

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r05yosatsu.html>

- ・古川農業試験場の定点調査ほ(ひとめぼれ、無防除)では、**6月下旬以降発病株率及び株あたり病斑数が急増しており、平年を上回って推移しています。**また病害虫防除所の巡回調査では、**発生地点率が平年より高い結果となっています。**

- ・**6月下旬以降、県広域に葉いもちの「感染好適条件」が連続して出現しており注意が必要です。**

- ・上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になります。葉いもちが広く確認される時期は7/11～15と推測されているため、ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。

- ・特に窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は、早期発見、早期防除に努めましょう。

- ・また、追肥後は一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。

- ・穂いもちの予防粒剤は、出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。

【参考】BLASTAM (ブラスタム) による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病害虫防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>



進行型病斑

②紋枯病

- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。

- ・**前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、穂ばらみ期～出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。**

- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤(液剤、水和剤、粉剤)がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。

- ・要防除水準は、稲作情報第4号(7月3日発行)を参照してください。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/6313/inasaku4.pdf>

③稲こうじ病

- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多い条件下で発生しやすくなります。
- ・ほ場に残った菌核などが伝染源となるため、前年に多発したほ場では注意が必要です。
- ・銅剤は予防効果が高く、出穂 20～10 日前が散布適期です。
- ・窒素肥料の多用は発生を助長する恐れがあるため、多発が予想されるほ場では過剰な追肥は避けてください。

④斑点米カメムシ類

- ・水田周辺の雑草地や法面等では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、7月中旬までに草刈りを行いましょう。
- ・水稲の出穂前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稲が出穂する 10 日前までに行います。出穂期の予測を参考に作業の計画を立てましよう。

(2) 乾田直播栽培

基本的には移植栽培と同じ管理となりますが、以下の病虫害の発生に注意しましよう。

1) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、感染のタイミングが遅れる傾向があります。
ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましよう。

2) イネツトムシ

通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましよう。

5 東北地方の向こう 1 か月の天候の見通し (7/6 仙台管区気象台発表)

予報のポイント

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- 期間の前半は気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は平年並か多いでしょう。

■宮城県農薬危害防止運動実施中 (6月1日～8月31日)

宮城県では、6月から8月にかけて農薬危害防止運動を実施しています。この時期は農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましよう。

次回の稲作情報第6号は、7月20日に実施する生育調査の結果をもとに7月21日頃の発行となります。